

認知症疾患医療連絡協議会

2月27日、当院研修室にて、千葉県東葛南部地域の『認知症疾患医療連絡協議会』が行われました。これは、同地域の「認知症疾患医療センター」である当院および八千代病院(八千代市)を中心に、東葛南部6市(ほかに習志野市、市川市、浦安市、鎌ヶ谷市)の関係する介護、行政担当者が一堂に会するもので、当日は55名の方が来院され、会議に参加しました。

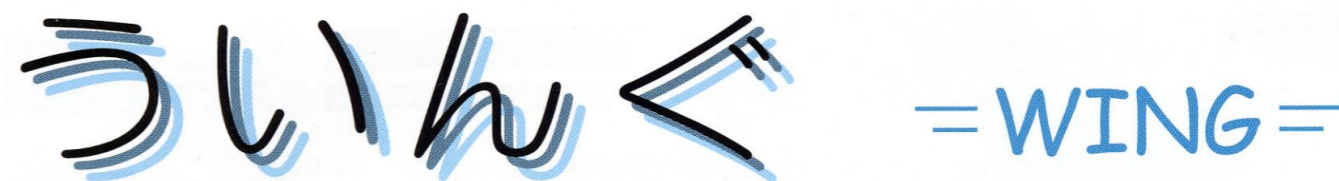
会議では、ともに昨年10月から「認知症疾患医療センター」として活動する、千葉病院、八千代病院のそれぞれの活動報告にはじまり、各市の担当者から挨拶やコメントが出されました。各市には、それぞれ地域ごとに「地域包括支援センター」という、認知症対策・支援・介護の拠点となるセンターがあり、出席者の多くは地域包括支援センターの担当者でしたが、どの出席者からも、認知症対策に取り組む姿勢が垣間見られ、予定の2時間はあっという間に過ぎてしまいました。

地域の認知症支援の充実を図るためには、医療と介護、行政との緊密な連携が必須となります。そのためにも、今後もこういった会合を積み重ねていきます。



写真:会場となった当院研修室。熱心な話し合いが行われました。

写真右:挨拶をする小松センター長



千葉病院広報紙 2015. 春号 (第48号) 発行者 医療法人同和会 千葉病院

千葉病院行事のご紹介

当院では、年間を通じてさまざまなイベントを開催しています。主に入院・外来患者さんのためのレクリエーションを目的としたものですが、中でも、初夏の「あおぞら祭り」と、8月の「盆踊り」は、地域の人々にも多くのご参加をいただき、病院の駐車場や院庭を開放して、さまざまな模擬店や、太鼓やダンス、ソーラン節演舞などの催し物を企画しております。今年も、多数の皆様のご来場・ご参加をお待ちしております。

※行事の年月日は予定です。あおぞら祭り、盆踊りにつきましては、次号以降改めてご案内します。

「音楽のある病院」を掲げる当院を代表する春のイベント。今年の様子は裏面をご覧ください！

2015年3月14日 音楽祭

名作や話題作など、さまざまな作品の中から、レク委員会が厳選したものを上映しています。

5月27日 映画会

～ 最善の行動と信頼 ～

医療法人 同和会 千葉病院

【病院概要】

- 診療科
精神科・神経科・歯科(要予約)
- 院長
小松 尚也
- 外来診療時間
平日9:00～12:30(月曜日のみ9:30～12:30)
土曜日9:00～12:30(午後は予約制)
- 休診日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日(創立記念日)
- 所在地
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508
Tel:047-466-2176 Fax:047-466-7503
ホームページ: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp



千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護がされます。

発行:医療法人同和会 千葉病院
発行日:平成27年3月7日
住所:千葉県船橋市飯山満町2-508
Tel 047-466-2176 Fax 047-466-7503
URL://www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

千葉病院外報「ういんぐ」2015年春号をお送りいたします。1面では、当院の今年イベントカレンダーを載せました。また、今号より、ドクターコラムは湯浅医師による「精神科リハビリテーション」が連載されます。併せてご覧ください。

6月13日 あおぞら祭り



初夏の晴天のもと、青々とした芝生の上で、ソーラン演舞やダンス、楽器演奏などが行われます。

8月5日 盆踊り



かき氷や焼きそばなどの模擬店や太鼓の演奏、そしてもちろん盆踊りの輪も。ちょっと早い納涼気分を一緒にどうぞ！

10月14日 映画会

12月9日 クリスマス会

患者さんたちが病棟やデイケア、OTなどグループごとに出し物を発表。医局の先生方も参加します。

当院から地域へ 地域から当院へ

当院では、看護学生の実習も受け入れております。中でも、千葉県立保健医療大学からは20年以上にわたって、毎年80名近い学生さんが実習しています。今回は、その実習の様子をご報告いたします。

実習担当の先生からご寄稿いただきました。

千葉病院の皆様には、前身の衛生短大時代から長きにわたり、精神看護学実習で大変お世話になっております。保健医療大学は千葉市の幕張にある県立大学で、看護学科の他に栄養学科、リハビリテーション学科(理学/作業)、歯科衛生学科があり、保健医療職を目指す学生達が、切磋琢磨しながら学びを深めています。

精神看護学実習では、『精神科病院及び地域リハ施設において、精神障害者それぞれの個別的背景や、障害とともに生きる現状を可能な限り理解しつつ、精神看護の実践的あり方を学んでいく』ことを目指しています。千葉病院の実習では、各病棟スタッフ・実習指導者の方々にいつも大変温かく受け入れていただき、1グループ6日間という短い期間ではありますが、学生達は自分なりの学びを深めつつ、伸び伸びと実習をさせていただいております。

今後も皆様には色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうか御理解ならびにご指導のほど、よろしく願いたします。



写真上:実習中には、当院看護師も参加するミーティングも行われます。
写真下:昨年のクリスマス会では、看護学生も歌やダンスを披露しました。



千葉病院Drによる医療コラム 第19回

精神科リハビリテーションについて その1

千葉病院医師 湯浅 稚子

みなさん、『リハビリ』と聞くと、脳梗塞や骨折を患った後に行う歩行訓練など『身体リハビリテーション』を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

そもそも、リハビリテーションとは、どのような意味があるのでしょうか。

『re(再び)+habilis(ふさわしい)+ation(状態になる)』=『再びふさわしい状態になること』『本来あるべき状態への回復』という意味があります。

つまり、リハビリテーションには、様々な疾病によって生じた能力低下を改善するための訓練をし、その患者さんが属する環境・社会に再び戻ることを目指す、そういう意味合いがあります。

精神科においては、統合失調症や気分障害(躁うつ病やうつ病)をはじめとした精神疾患を患うと、病状が安定するまでに時間がかかりますし、調子が良い時と悪い時の波があります。

病状が安定した後でも、「疲れやすい」「集中できない」「人と交流しづらい」「生活が乱れやすい」などから、日常生活や仕事が以前のように出来なくなることがあります。

また、長く療養している中で、社会との関わりが薄れてしまうこともあります。

病気の治療は薬物療法が主体ですが、それに加えて、このような生活上・社会上の障害を改善するためのリハビリテーションを行うことで、病状の早期改善と安定に有効であると言われております。

精神科のリハビリテーションには、作業療法、心理教育、生活技能訓練(SST)、精神科デイケアや作業所をはじめとする通所施設、訪問看護、ホームヘルプサービス...などなど、入院治療から外来治療まで、様々なリハビリテーションがあります。

患者さんによって、病状も環境もそれぞれ違いますから、個々に合ったリハビリテーションを組み合わせで行います。

ここでは、千葉病院の活動を紹介するコーナーです。

退院支援への取り組み

3病棟師長 小山 均

本年4月に、精神保健福祉法が改正され、退院支援について新たな制度なども設けられました。その制度改正も踏まえ、当院での「退院支援」への取り組みについて、連載しております。

第3回目となる今回は、当院の精神科救急病棟における退院支援の実際について、病棟師長が執筆いたしました。

精神科救急病棟では当院に要請される措置入院をはじめ、精神科急性期の手厚い治療を必要とする様々な患者さんを受け入れており、入院期間は3ヶ月以内を原則としています。生活のリズムを整え、早く元の生活に戻れるように入院早期から医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・臨床心理士・訪問看護師など幅広い職種間で情報を交換しチーム医療を展開しています。急性期症状に対する集中した治療と、患者さんの個別性に合わせた医療を提供しています。

担当ナース制度

入院から退院まで基本的に1人の看護師が継続して患者さんや家族の方々と関わっていきます。同じ担当看護師が対応することで困っている事をいち早く見つけだすことができ、継続して関わることで信頼関係を築けるように努めます。これらの事が病状の改善に、ひいては早期の退院に繋がると考えているからです。

安心して入院できる環境

精神科の病気の特性として周囲の人や音が気になったりすることもいらっしゃいます。救急病棟は病床の半数以上が個室となっています。穏やかに過ごせる環境を提供しプライバシーに配慮することで安心して治療に専念していただける事を目標としているからです。

病気を理解するための活動

「統合失調症勉強会」という患者さん同士の集まりを週に1回のペースで開催しています。医師や薬剤師から専門的な知識を提供していくと共に、同じ病気を持つ当事者同士で互いに問題の解決方法を話しあったりアドバイスをしたりしています。この勉強会を通じて病状をコントロールする、病気と上手に付き合っていく事が目標です。



看護師のみならず、医師や作業療法士など多職種を交えたミーティングを定期的に行っています

退院後を見据えた関わり

患者さんにとっては退院がゴールではありません。その後の生活が問題なく送れるか、外来に定期的に通院できるかという事がとても大切です。そこで患者さんには入院中から「退院後生活環境相談員」および「退院支援相談員」という担当者が選任されて関わりを持っています。入院中から退院に向けての課題と一緒に取り組み、退院後の生活の負担が少しでも減るように関わらせていただきます。

おわりに

「精神科病院ではどんな治療をしているのかわからない」「入院に怖いイメージがある」等の印象がある方もまだまだいらっしゃると思います。現在の精神科病院は行なわれる治療や薬の説明は丁寧にさせていただきますし、入院期間もできるだけ短く済むようにという流れになっています。メンタル面に関してお悩みをお持ちの方がいらっしゃいましたら当院に是非ご相談ください。一緒に解決方法を考えていきましょう。